

第2回「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日 時 2019年2月8日（金） 14:00～16:00

場 所 町田市役所 2階 2-1 会議室

【出席者】（敬称略）

■委員

関司 直也（委員長）、柳沢 厚（副委員長）、老沼 敬助、若林 幸三、熊谷 正廣、田中 英夫、大谷 直勝、中丸 康明、山崎 凱史、岸 由二、福原 斉、尾留川 朗、間仁田 修、宮下 徹

■事務局

荻原北部・農政担当部長、石井農業振興課北部・里山担当課長、中川担当係長、松井担当係長、井上主任、浅場主事

■オブザーバー

井上農業振興課長

■傍聴者

0人

【資料】

次第

（資料1）第1回検討委員会での主な意見及び対応について（資料1）

（資料2）町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン進捗確認シート

【議事要旨】

- ・事務局より、北部丘陵地域での事業の進捗状況等を説明した。
- ・委員より質疑応答を受け、意見交換を行った。

【会議内容】

1 開会あいさつ

経済観光部北部・農政担当部長より挨拶

2 議事

（説明）

- ・2018年度第1回検討委員会での主な意見及び対応について（資料1）の主な事項を事務局から説明

（説明）

- ・町田市北部丘陵活性化計画アクションプランの進捗確認シートについて、（資料2）に基づいて事務局から説明

3 その他

（意見交換）

- ・「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」について各委員から意見

4 閉会

■意見等

(委員)

- ・年度目標の評価について、○、△、×というのは、市で決める自己評価であるのか。検討委員会で評価を決めなくてよいのか。

事業番号3のドリームミーティングについて、小山田地域では疑問に思っている。良い意見が出たが、どんな意見が出たか市が公表しない。どう進めるのか、市と参加者で食い違いがあるため、がっかりした。年度目標の評価は○ではなく、×ではないか。

事業番号2の山林バンクについて、事業がふっと湧いてきた印象がある。どの場所でやるのか公表し、公に申し出て実施する方がよいのでは。実施する場所が、自らの担当エリアであるにもかかわらず、小山田中部街づくり協議会の代表である私が知らない。市が団体とのつながりの中で事業を進めているのは疑問である。小山田中部街づくり協議会とも関わりながら事業を進めてほしい。

事業番号11の生活道路を進めるのはよい。ただ、都道155号線を市が整備するのは間違っている。市が以前、重複認定すればよいと発言していたが、道路の認定は議会の議決事項であり、議員の半数の可決が必要である。そのため、議会で重複認定ができればよい。

下小山田町内会から、リサイクルセンターの建替えに伴い、生活道路の地元要望を出し、2路線のうち、1路線は進みそうである。この進捗確認シートにその生活道路を記載しない理由がわからない。

事業番号13の市街化調整区域地区計画運用指針は、今現在策定されていない。

事業番号12の新規バスルートについては、ありがたい。要望としては、今は10人乗りであるため、乗れずに通過されることがある。また、土日祝が運休であるため、運休を知らない利用者がバスを待っていることがある。その利用者を唐木田まで乗せたこともある。使い勝手が悪い。年末年始は運休でもよいが、土日祝、通勤通学の時間帯や帰宅する22時台の運行があるとよい。

(委員長)

- ・年度目標の評価の付け方や委員の評価について、事務局はどのように考えているのか。

(事務局)

- ・事業の主管課が、評価をつけている。全くの空欄であると、委員も評価するのは大変だと思う。そのため、事務局で評価をつけるのは仕方ない。委員から意見があれば、持ち帰り各主管課で協議する。仕事目標など、色々な計画で評価は同じように記載している。

まだ、事業を終わっていないとの意見については、3月31日までにできる見込み（前提）で記載している。2017年度は、検討委員会の前とその後で別段の構成にしていたが、わかりにくいので、2018年度はまとめて記載した。2019年度予定している第1回の検討委員会では、2018年度の結果を提出できると思う。

山林バンクの団体とのマッチングについて、団体の募集は本格運用する2020年度を予定している。2019年度まで試行運用を行う。2020年度の本格運用には漏れがないように進めていきたい。

(委員)

- ・山林バンクの募集に対して、参加できる基準がわからない。

(事務局)

- ・先ほど紹介した東谷戸での取り組みの際は、地域の関係者と近隣で活動しているNPO法人まちだ結の里へ周知を行った。

(委員)

- ・地域の関係者からは、市から話は受けているが、あんな場所で竹を整備しても意味がないと聞いている。個人に話をするのではなく、地区の代表に話してほしい。

(事務局)

- ・地元の地権者でもある元町内会長と相談し、市と活動団体（HATARAKU 認知症ネットワーク）、地域住民や小山田大龍地区街づくりを考える会の3者での立会いは必要ないと言われていた。

(委員)

- ・新聞の掲載で注目されたが、市全体として考えた時、北部丘陵地域が良い街づくりができているかは疑問である。全体の中で、事業を選び進めていくのがよい。将来の足かせとなる事業は良くない。土地の境界も決まっていない中で、事業を進める事務局にも不満がある。

(委員)

- ・何か行う際に全員の承諾を待っては、いつになっても何もできない。周囲に活動の取り組みを通して認めてもらう方がよい。ただ、地元との話し合いも必要。

(委員)

- ・活動自体は立派であるが、事業をやりたい人が行えるように公募で団体を募集するべきである。今は、事務局の担当者と親しい団体が事業を進めている印象がある。

(委員)

- ・モデル事業で、HATARAKU 認知症ネットワークがNHKから賞を受賞したとのことだが、この賞を受けた団体はウィズという団体か。

(事務局)

- ・HATARAKU 認知症ネットワークの代表の方が、色んな団体に関わっているため、ウィズという団体に関わっている可能性はある。

(委員)

- ・地域としては、周りに賞を受賞したことを知ってもらい、評価してもらうのはよいことだと思っているが、このことを今初めて知った。地域に一切話しを持ってきていないため、寂しい。地域への周知を考えてほしい。

(事務局)

- ・モデル事業については、課題出しを含めて行っている。課題は、本格的な検討をする際の材料としている。事前の周知や活動の目的を伝えることは必要であるため、課題としていきたい。

(委員)

- ・地域の委員への連絡、コミュニケーションがなければ、周りの人から懐疑的な目で見られる。活動者にもプラスにならないため考えてほしい。

(副委員長)

- ・モデル事業とはいえ、情報をオープンにしてはどうか。参加者には一定の基準がいるのではないか。

(委員)

- ・事業は、地域からの自己申告制で行っている。市から持ち掛けられた話しではない。小山田四季彩の森は市からの投げかけであったが、ヤマツツジの里は地元からの動きである。地域への話しはしてほしい。

(副委員長)

- ・基準を持って、地元と話してもらうことが必要。

(委員)

- ・話し合いがないと、活動団体と地域で軋轢が生まれるのは、過去に経験しているのでよくわかる。

(委員長)

- ・基準と報告、フィードバックを行い、情報を知ってもらう。効果を検証するまでの仕組みを入れること。情報を地域に伝えるだけと効果を検証するまででは意味合いが違う。

(委員)

- ・バスルートについて、今までの利用状況は調査しているのか。

(事務局)

- ・土日祝に運行するとは聞いていない。意見があったことは伝える。利用状況はデータが手元にないため、データについては別途報告する。

(委員)

- ・データは市の HP に載っている。

(委員)

- ・夜は運行がなく、日中は利用者がいない。進捗シートには 2019 年 8 月に、運行する準備が整ったとの記載がある。もう運行しているのか。

(委員)

- ・今工事中である。8 月に運行することは初めて聞いた。

(委員)

- ・徒歩だと 40～50 分かかるのでありがたい。

(委員)

- ・乗車定員が少なく、朝は乗れない恐れもあるので怖くて乗れないが、事業はありがたい。

(事務局)

- ・2018 年上半期の運行状況は、70 人後半。1 台あたり平均すると 2.2～2.6 人。通勤時には乗れないが、日中は空きが目立つということと思う。

(委員)

- ・担当部署がデータを知らないのは恥ずかしい。進捗シートの項目に身を入れてほしいし、地域とコミュニケーションをとってほしい。

(委員)

- ・試行で行っており、8 月から本格運用する。

(委員)

- ・親戚がバスを利用している。利用調査しているのか。人がいない時に運行している。今までバスがないので遠回りしていた。いつ、どんなバスがほしいか調査した上で、8 月の本格運用を

してほしい。

(委員)

- ・車は3台購入して、その内2台運行している。1台は予備。

(委員)

- ・意見を配慮した方がよい。

(委員)

- ・8月の運行はよい。

(委員長)

- ・情報を伝えていくことも市の責任でもある。

(事務局)

- ・後ほど、市の見解を詳しく説明する。

(委員)

- ・鶴見川の報告については、ありがとうございました。市が内容を把握していることが大切。河川整備が未定とのことであるが、河川整備計画の改定があるため、整備するためには、計画に盛り込んでもらわなければならない。そうしないと、都の都合だけの改修になる。どういう改修をするかで、小山田中部街づくり協議会やリサイクルセンター周辺の計画にもつながる。

東京都は予算があるため、計画に反映できるように伝えていかなければならない。

事業番号14の保水の森の柵の設置は完了したのか。結果の連絡がきていない。

(事務局)

- ・これから整備する予定である。

(委員)

元々、鶴見川源流ネットワークが40ヘクタール(3区域)の管理を行っていたが、現在はヤマツツジの里は田中谷戸街づくり協議会、野中谷戸は鶴見川源流ネットワーク、残る源流は管理者が決まっていない。そのため、源流をどのようにしていくか市の考えを聞きたい。都の防災部署でも危険であることは把握している。

講師謝礼の40万円とは、全て小山田四季彩の森で使用しているのか。

(事務局)

- ・小山田四季彩の森のイベント2回と木こり応援隊のイベントの2つで使用している。

(委員)

- ・謝礼は、個人または組織に払っているのか。

(事務局)

- ・複数の個人に支払っている。

(委員)

- ・MTBの活動について、中身は大賛成。ただし、関係する協議会や担当地区のアドバイザーである私が知らないのは問題。

(事務局)

- ・今後は周知していく。

(委員)

- ・事業番号11について、要望路線の1つが進みそうであるので、そこを記載すれば評価は○に

なるのでは。道路政策課から情報が入っていないのか。

(事務局)

- ・記載方法及び評価については、道路政策課と相談する。

～「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」についての意見及び質問～

(委員)

- ・この検討委員会の時間を延ばせないか。

(事務局)

- ・次の予定があり、延ばすのは難しいためコンパクトに意見をお願いしたい。

(委員)

- ・進捗確認シートについて、できていることはできている、できていないことはできていないと記載した方がよい。はっきりとした表現の方が行政も楽になれるのでは。里山交流館も運営は大変。目標である来場者の達成のために月に 3000 人を計画しているが、12 月から 2 月は、月に 2000 人がいいところである。近隣の方が来場するのが大切。来場してもらうために、考えなければならない。竹林の活用ができたかと思っている。年に 40 個のイベントを開催している。

(委員)

- ・できていないことはできていないと、わかりやすい進捗確認シートを作成したほうがよい。

(委員)

- ・事業番号 5 のイベントの件で、イベントの成功に関する評価がない。申込率のみの記載である。イベントスタジオも実施する目的が何かははっきりしない。実施することが先行している。結果や目的をはっきりさせたい。

(委員)

- ・評価が出るまでのプロセスが見えない。推進ネットワークについても、プラットフォームの概念が古い。発信するものを共有することが大切（活動者間や市の動き）。小さなプラットフォームの概念を考えてもらいたい。当事者間だけではなく、利害関係者にどう伝えていくのか。意見を言えなかったり、事後で情報把握するのはよくない。

(委員)

- ・事業番号 5 のイベントについて、目標は何%にするのか、定員は何人にするのか等の課題もある。町田市観光コンベンション協会で実施しているイベントもこの進捗確認シートには反映されていない。ガイドウォークも開催しており、町田市観光コンベンション協会では、現地で NPO が実施している取組が注意事項で説明している。ツアーで地域に落とすのに、小野路には里山交流館があるが、小山田にはない。現地の紹介を通じて、北部丘陵の良さを PR し、里山の保全活動につながればと思っている。

(委員)

- ・活動団体以外の方が説明すると、誤りがあるため、代わりに説明するのはやめてほしい。町田市観光コンベンション協会とはつながって情報共有していきたい。

(委員)

- ・アクションプランでは、5 つの重点事業がある。本質的に進むのが大切。行政側と地元側で違いがある。委員の評価、一般の方の評価も大切であることを感じた。

(委員)

- ・町内会長を長くやっているが、市が何の活動をしているか知らない。知らないことをやっても、評価できない。

(委員)

- ・2回目の検討委員会参加となる。市から細かい説明があるが、話を聞いて、必要なことを地域に周知してほしいと思った。

(委員)

- ・2回目の検討委員会参加であるため、内容をよく理解していない。事業の項目は委員で決めたのか。それとも自然発生したものであるのか。

(事務局)

- ・2016年度に委員会形式で、6回行い項目を決めた。ゼロからでは難しいため、事務局から案を提示し、意見交換しながらつくっていった。

(委員)

- ・事業の最終的な目標があり、事業が良いか悪いかではなく、進捗状況に対しての評価をしていることがわかった。

(委員)

- ・アクションプランは進まないことを実感した。1月20日、協議会を開催したが、事業が膠着状態であるため、まずは地域の資源を見つめなおし、資源をマップに落とすことから始めようということになった。

(委員)

- ・アクションプランの項目のうち、1番気になるのが、事業番号13の市街化調整区域における地区計画活用の考え方の決定である。アクションプランが既に2年経過している。農業振興課の意見が聞きたい。法令の改正も検討してほしい。市街化区域の生産緑地も指定から30年で市が取得してくれる。まずは、市で道路をもう少し整備してほしい。
市街化調整区域にある山林や農地も固定資産税や相続税も払い、なおかつ維持管理に労力がかかる。市に固定資産税や相続税を免除する等、法令改正も含めて補助してほしい。

(委員)

- ・アクションプランで全項目の評価が◎となっても、地域は良くならない。全体をよくするには活性化計画の見直しが必要。この地域で農業を主体としては生活していけない。外から来る人は自然があり喜ぶが、農地を数多く持つ市は大変である。農地は農地以外には利用できない。小山田小の北側にある畑は本当に畑として利用するのか。1番の地主である市が山は山林バンク、畑は農地バンクとして考えている。そのため、元の計画を変える必要がある。
地区計画もできてきたが、沿道以外は保全することになっている。都民や国民が有効に利用できるように計画を変えていかなければならない。そのためにも、北部丘陵担当の部署が、農業振興課であるのはおかしい。

(委員)

- ・畑や森林を事実上の雑種地にしないと計画も策定できない。木を農地に植樹するのもいけない。政治が変わらなければ変わらないだろう。

(委員)

- ・7割の市の畑と3割の民の畑。区画を変更して良いまちづくりをする必要が市にはある。

(委員)

- ・まちだ〇ごと大作戦で、小さなNPOともつながりができてきた。このつながりもアクションプランに関与してくればよいのでは。

(委員)

- ・小山田と小野路では、進み方が違うため2つに分けたほうがよい。

(委員)

- ・市街化調整区域の畑や山林の維持管理は大変。NPO等に支援してほしい。

(副委員長)

- ・農業振興課が街づくりを担当するのは間違っている。しかし、アクションプランはこのメンバー中心に策定した。まずは、ここの事業を進めるのは大切である。進捗確認シートもあっさりとした記載ではなく、詳細に記載し、認識が共有できるようにする。どこで何がどういう成果であるのか。説明はあっさりでよい。組織間の連携については、当面は小さなプラットフォーム間になる。事業番号3で3年でプラットフォームができると記載してあるが、どういう構成でどういう役割であるのか、運営原則のイメージをつくるのが大切。まずは、当面、何をするのか記載する。小さなプラットフォームではなく、今活動している団体が一同に集まり意見交換を行えるように市が調整する。着地の組織をイメージするためにも、早急に検討する必要がある。

(委員)

- ・情報交換しても、その会に来た人がその活動団体に情報を流すとは限らない。その会に来た人が最初の情報交換する場に再度報告するような仕組みが必要。

(副委員長)

- ・共有することは大切。

(委員長)

- ・行政起点のネットワーク。地元や外部が集まるのがこの場である。そのため、うまく情報交換することが必要。私見であるが、ここの情報を新聞等のアナログで発信することは有効である。評価のプロセスにおいても、顔が見えて、動きがわかることが大切。場合によっては活動団体に確認し、様子がわかるものをできるだけ拾い集めていく。次の計画にもつながるため、今後の宿題も含め次の2年は大切。

(事務局)

- ・2時間ありがとうございました。できるところから進めていく。資料や情報提供についても引き続き意見をお願いしたい。

検討委員会の回数についても意見を頂いているが、約束はできない。次回は7月下旬から8月上旬の予定である。次の進め方の検討後、連絡する。